

今回視聴したウェビナ

民間宇宙輸送のリーディング企業インターステラテクノロジズ社が登壇する、リョーサン菱洋株式会社主催ウェビナを視聴した。インターステラテクノロジズは、ロケットを核に周辺領域へ事業展開する垂直統合ビジネスを掲げており、ロケットだけでなく通信衛星の開発も行なっている。

1時間ほどのウェビナで従来と今後に分けた整理が多く、今できていないことが衛星産業の進化によりどう解決できるのか、通信衛星に関するエレクトロニクス部品選定はどう変化していくのか、という問いに対し、理解が深まるウェビナであった。日頃はあまり聞くことがない内容が多く、エレクトロニクスに携わっている我々の好奇心に訴える1時間であった。



【登壇者】

(左から) インターステラテクノロジズ株式会社 衛星研究開発部 部長 森岡澄夫氏、リョーサン菱洋株式会社 デバイス営業本部 デバイス技術第三部 FAE 奥村氏、セールスプロモーション部 一ノ瀬氏

人工衛星産業のトレンドから紐とく今後のエレクトロニクス部品選定

従来は数十～数百億円の衛星を長年使う傾向であったのに対し、民生品(COTS部品)を活用した小型の低軌道衛星を数多く配置し、衛星コンステレーションを構築する方針へと転換期を迎えている。衛星のトレンドが、「一点モノの高品質・少量生産」から「一定の品質を確保しながら低コストで大量生産する工業製品」へとシフトしているためである。重要視されている要素は以下である。

- ・ 民生品、汎用品の機種活用
 - ・ 開発期間の短縮
 - ・ 技術革新スピード活用
 - ・ 設計標準化、モジュール化
- ・ GSMA IoT SAFE
 - ・ UNECE WP.29 R155/R156
 - ・ ISO/SAE 214
 - ・ IEC62443



- ・ 品質維持とコスト最適化
 - ・ 設計段階からの品質安定
 - ・ 継続的な部品使用
- ・ NR-NTN
 - ・ IoT-NTN
 - ・ GNSS
 - ・ 地上TN 他…

参考：6/4リョーサン菱洋テクラボ：宇宙インフラ開発の最前線：衛星通信の進化とエレクトロニクスメーカーにもたらす新ビジネスを基に図式化

本ウェビナの
勘どころ

- ・ 自社に遠く感じる「宇宙産業」を情報収集の観点の1つとして参考にすると、エレクトロニクスに関連する部品、通信・セキュリティの先行情報が得られる。
- ・ 宇宙産業は転換期を迎えている。技術革新スピードを向上させるにあたり他の業界ではどのような変化が生じているのか把握しておくことが重要。一見、関連付けるのが難しい内容と感じても実は自社に落とし込める内容があるかもしれない。

ウェビナ視聴・編集：大村わかな